



日本原子力学会「原子力安全」調査専門委員会
第6回 放射線影響分科会会合議事録

平成23年10月1日に第6回放射線影響分科会を開催した。議論された内容は以下のとおりである。

- (1) 日本原子力学会 2011年秋の大会「福島力発原子力電所に関する特別シンポジウム」及び連部会企画セッション発表について
- (2) 空間線量の測定値と実効線量について
- (3) 原子力施設の緊急時対応のあり方に関する提言（案）について
- (4) その他

(1) では、特別シンポジウムで本分科会に関連した発表内容及び質問について報告があった。質問件数は6件程度（重複質問を除くと4件）であった。また、本分科会関連部会（社会環境部会、放射線工学部会、保健物理・環境科学部会）から、企画セッションの内容、今後の課題等について報告があった。

(2)では、空間線量の測定値と実効線量について、一般公衆だけでなく、専門家の中でも、混乱する可能性があるため、放射線影響分科会として解説を作成することが提案され、原案をもとに議論を行った。原案に記載されている実効線量計算のための照射条件に関する問題だけでなく、線量計の特性等に関することも解説案に盛り込むまたは別に解説を作成した方が良いとの意見があり、さらに審議することとなった。

(3)では、原子力施設の緊急時対応のあり方に関する提言（案）についての議論を行った。SPEEDI等の標準化や大気拡散モデル・汚染水シミュレーションコードの構築、これらの維持・管理について、原子力学会としての防災への取り組み、わが国の原子力防災体制に関する全般的な内容についての意見があった。さらに意見集約、審議した上で提言を作成することとなった。

以上